

リーダーたちの本棚

Leaders as Reader

検証と改善を徹底し 新たな100年へ

【率いる】
Leading

高松建設は、高松コンストラクショングループの中核会社。創業以来黒字決算を維持し、無借金経営を継続している。集合住宅、オフィスビル、医療・福祉施設、店舗施設、宿泊施設などの建設事業を行い、これまでの実績は4600棟超。高松孝年さんは6代目の社長で、孝年さんの父・孝育さんは3代目。創業家出身の社長就任は14年ぶりとなる。

「昨年100周年を迎え、新たな100年に向けた第一歩を踏み出すタイミングで社長という大役を任せられました。私の役割は、社の実績を維持するのはもちろんのこと、建築市場の好況を追い風に5代目社長のもとで大きく伸びた業績と成長路線を引き継ぐこと。好況の背景には2020年東京オリンピック・パラリンピックがありますが、開催後の市場環境は不透明で、技術革新などのめまぐるしい変化も起こり得ます。好業績にあぐらをかかず、危機意識を持って経営にあたっています」

掲げるキーワードは「C&Cカンパニー」。コンサルタント(Consultant)とコンストラクト(Construct)の略で、ソフトとハードの両面で強みを持つことを意味する。新たな100年に向けては、「検証」「改善」「改革」というスリーステップを設けて取り組みを始めている。

「当社は賃貸マンション事業の専らですが、今では競合がひしめく市場に変わっており、時代に沿った提案ができていないか、制度疲労はないかなどを改めて検証しています。検証して見えてきた課題は、これ以上は改善できないだろうという限界まで突き詰めていき、その上で改革の必要性があれば適宜対応していきたいと考えています」

首都圏のシェアが急伸中

同社の建物は、阪神・淡路大震災でも倒壊・半壊を1棟も出さなかった強い耐震性を誇る。創業の地である大阪を中心に関西エリアでは高い知名度とシェアを有し、近年は首都圏でもシェアが伸長、関西と関東の売上高が逆転した。

「賃貸事業が成立する駅から徒歩15分以内の物件を中心に扱い、駅から距離のある物件は、高齢者施設や物流倉庫など「駅近」の必然性がない物件に限っています。賃貸マンション市場は一時、効率よく利益を得るために安普請のワンルームマンションが乱立しましたが、供給過剰による空室の増加、家賃の下落、近隣大学の移転といった理由から、マンション経営の行き詰まりや地域の空き家問題を引き起こしています。当社はこうした動きと無縁。扱うのは、幅広い世帯にご利用いただける間取りを中心とする住宅や、住商複合型建築といった高寿命の物件です。また、土地の選定から現地調査、建物の設計・施工、アフターメンテナンスに至るまで、ワンストップで対応できる体制が整っており、これが大きな強みとなっています」

歴史あるオーナー企業の経営を引き継いだ自らを「バトンランナー」と呼ぶ高松社長。挑戦は始まったばかりだ。「私も副社長も40代。この世代の経営者は上場セネコンではめづらしい。保守的な業界体質にとらわれないことと柔軟に変化に対応し、次の100年の礎を築いていきたい」

■朝日新聞社メディアビジネス局ウェブサイトでは、高松孝年さんが語るリーダー論を紹介しています。
<https://adv.asahi.com/> 朝日新聞 広告

本連載「リーダーたちの本棚」が書籍化されました
『私をリーダーに導いた250冊』好評発売中
朝日新聞出版 ISBN 978-4-02-331547-1 本体価格 1500円+税



高松建設
代表取締役社長

高松孝年 さん

1970年大阪府生まれ、94年関西学院大学商学部卒、同年大手ハウスメーカー入社。98年高松建設入社。グループ会社JPHホーム東京本店長、副社長、社長を歴任。2013年高松建設取締役、副社長を経て18年4月から現職。

高松孝年さんのおすすめ本棚

『吉原御免状』(新潮文庫) 隆慶一郎・著
宮本武蔵に育てられた青年剣士・松永誠一郎は、師の遺言に従い江戸・吉原に赴く。その行く手に待ち受けるものは――大型剣豪作家初の長編小説。

『28歳・自己実現のヒント』(実務教育出版) 本田有明・著 (必読)
忙しい毎日の中で夢や目標を見失っていないか、30代前にこれまでの行動を振り返り、「こうありたい」と願う生き方に軌道修正するための方法を伝授。

『シヤアに学ぶ“逆境”に克つ仕事術』(日本実業出版社) 鈴木博毅・著
「ガンダムが教えてくれたこと」に続く第2弾。カミーユら若手を率いて戦うシヤア。チームを勝利に導くその素早い決断力、行動力、周囲への気配りなどを分析。

『嫌われる勇氣』(ダイヤモンド社) 岸見一郎、古賀史健・著
アドラー心理学の第一人者である岸見一郎氏がライターの高賀史健氏とタッグを組み、フロイト、ユングと並ぶ心理学の巨匠・アドラーの思想を解き明かす。

『資本主義の終焉と歴史の危機』(集英社新書) 水野和夫・著
金利ゼロ、利回りゼロと、資本主義の最終局面に立つ日本。異常な低金利の低下という負の条件をプラスに転換し、新たなシステムを築くことの大切さを説く。

「嫌われる勇氣」は、叔父で名譽会長の高松孝之に勧められて読みました。アドラー心理学の心掛けに精通する哲人から、青年が議論を挑むことができる。世界はシンプルである。誰もが幸福になれる」という哲人の言葉に納得

「嫌われる勇氣」は、叔父で名譽会長の高松孝之に勧められて読みました。アドラー心理学の心掛けに精通する哲人から、青年が議論を挑むことができる。世界はシンプルである。誰もが幸福になれる」という哲人の言葉に納得

「嫌われる勇氣」は、叔父で名譽会長の高松孝之に勧められて読みました。アドラー心理学の心掛けに精通する哲人から、青年が議論を挑むことができる。世界はシンプルである。誰もが幸福になれる」という哲人の言葉に納得

読書は自分の世界を広げる扉

協役も魅力的な 隆慶一郎の時代小説

学生時代は時代小説を読みあさり、中でも好きだったのが隆慶一郎の作品です。「週刊少年ジャンプ」(集英社)で連載された「花の慶次」が面白く、原作「夢庵風流記」(集英社文庫)にも興味を持って読んでみました。隆さんの作

品は傑作ぞろいですが、とりわけ「吉原御免状」は出色だと思えます。迫力の剣劇、艶やかな花魁文化、有名武将のたくらみなど、多彩な題材を絶妙にからめて描いています。主人公の松永誠一郎は宮本武蔵に育てられた剣豪で、自らに流れる血の宿命を受け入れて才能を開花させていきます。私自身は凡庸に育った人間ですが、血の宿命というものに共感するところがあり、若き日に読ん

だこともあって誠一郎の強さや優しさに憧れました。驚くような歴史解釈も本書の味わいで、なぜ吉原が誕生したのか、なぜ差別が生じたのか、といった解釈に目を開かれました。続編「かくれざと苦行行」(新潮文庫)や、本書の個性的な脇役が主役として登場する「柳生非情剣」(講談社文庫)、「影武者徳川家康」(新潮文庫)なども次々と読みました。どんな人間にも人生があり物語があると感じさせてくれるところも隆さんの魅力です。

大学卒業後は住宅メーカーに入社し、28歳の時に高松建設に転職しました。当時の社長は父でしたので、十字架の重みのようなものを感じつつ平社員からスタートしました。「創業家出身だからといって社長になれるか」と厳しく言われていましたが、責任ある仕事を任されるようになるにつれ、ビジネスチャンスや将来のビジョンについて悩むようになり、28歳の時に「自己実現のヒント」です。自分の適性を見極め、いつまでにどのような方法で夢や願望を達成するのかわかるようになる方法を学べます。

R

【読む】
Reading

三大都市圏を中心に土地活用や賃貸マンション建設などを提案する高松建設。昨年100周年を迎え、今年4月には創業家から高松孝年新社長が就任した。「私も歴代経営者も読書好き。当社の行動基準に「生涯学習。読書は自己実現達成への近道」という文言があり、読書は企業文化と言えるかもしれません」

将来のビジョンから逆算してやるべきことを割り出して、いくつも思考法は今も参考にしています。

「シヤアに学ぶ“逆境”に克つ仕事術」は、「機動戦士ガンダム」の主要キャラクターであるシヤアにスポットを当てたビジネス書です。シヤアは敵軍の天才パイロットとして主役をしのぐ人気を博しました。しかし続編の「機動戦士Zガンダム」では以前のような輝きが見られず、ガンダム世代の私は「シヤアならもっとやれるはず」とイライラしたものです(笑)。本書はそのあたりを解説していて、多くの失敗から学んだシヤアが、後進の指導やブレインゲーマンジャーとして手腕を発揮するようになったと分析しています。中間管理職的なシヤアの動きをビジネスシーンに置き換えているので、ガンダムファンは楽しく読めると思います。

「資本主義の終焉と歴史の危機」は、父から勧められた本です。地理的にも金融市場においてもフロイトやアドラーは失われつつあり、資本主義は限界にきていると、著者の水野和夫氏は指摘します。私はふだんから、飛躍的成長がなければ社会の繁栄はないか、適性成長率とGDPとをリンクさせるべきか、適性分配と多量な所得、といったことを考えることが多いので、本書の中でうなずく箇所が多くありました。ただ、それはあくまでも個人的な理解で、資本主義に基づいて経営を行っている以上、当然成長を追求していく必要があります。では、いったいどのような成長を目指すべきなのか。いろいろと考えさせられる内容でした。私にとって読書は、自分の世界を広げる扉。ジャンルにとらわれず、今後とも多くの本に触れていきたいと思っています。(誠)

できる青年は、何度も哲人の本をよみ、論破を試みます。青年の問いかけは、いつか、それゆえに哲人が彼に気づきを与え、導いていくプロセスが面白かった。人生のあり方を選ぶのは自分だけ。自分を変えたいのは自分だけ。変わることを他者が強要するのは意味がない」という考え方は、「すべてを行動は自らの選択である」と説くアメリカの精神科医・ウィリアム・グラッサ博士の選択理論にも通じる気がします。とはいえ、自分がアドラーの哲学を消化し、きたらと思っておらず、目下読書の「幸せになる勇氣」を読んでいるところです。

「資本主義の終焉と歴史の危機」は、父から勧められた本です。地理的にも金融市場においてもフロイトやアドラーは失われつつあり、資本主義は限界にきていると、著者の水野和夫氏は指摘します。私はふだんから、飛躍的成長がなければ社会の繁栄はないか、適性成長率とGDPとをリンクさせるべきか、適性分配と多量な所得、といったことを考えることが多いので、本書の中でうなずく箇所が多くありました。ただ、それはあくまでも個人的な理解で、資本主義に基づいて経営を行っている以上、当然成長を追求していく必要があります。では、いったいどのような成長を目指すべきなのか。いろいろと考えさせられる内容でした。私にとって読書は、自分の世界を広げる扉。ジャンルにとらわれず、今後とも多くの本に触れていきたいと思っています。(誠)

大医学部 & 医者

大問題

全国82医学部の新序列に娘、息子を医者として育てたい人必読

東京医大不正入試の内幕 極秘リストで加圧女子と多浪排除

受験とカネの基礎知識 学費の合計はいくらか

地域田舎で違う年収 北海道が関東より6000万円高い

内科が減少、東京が増加！ 新専門医制度が拍車掛けた医師偏在

女性医師にシワ寄せ 医療現場で働き方改革が進まない原因

イケてる若手は起業家精神旺盛

AIに匠の技を移植 禁煙アプリで患者と併走 バンクグラデシユ

未来の医療を模索 年中無休の小児科 続々開業 医療動画配信

女医では現場は回らない？ 本音で本音

UCLA 津川友介 東京医大 OGG 香山リカ 反論 藤原

医師本音座談会 30年後に栄える診療科、衰える診療科

集中連載 リーマンショックから10年 ドルの経済覇権争う米中

大好評中 マナーから入新卒まで タブー 解剖 宗教 カネと権力 真如苑：最新の内幕

創価学会、幸福の科学 週刊 東洋経済 690円(税込)

まんがでわかるライフシフト

100年時代の人生戦略

リンダ・グラットン / アンドリュー・スコット [著]
星井博文 [原作] 松枝尚嗣 [まんが]

日本人のためのライフシフト入門

人生100年時代の一大ブームを巻き起こした30万部のベストセラー、待望のまんが化!

Amazon.co.jp 7万部突破!

電子版 1200円

週刊 東洋経済

意思決定のための必読誌 好評発売中(9月8日号) 690円(税込)

関東の店舗を独自試算 西友の適正価格

下請け構造に変化? 融解するゼネコンの現場

道筋すら見えない原子力4社提携の虚構

スマホ電池でシェア世界 TDK子会社の実力

10年に1冊の必読書 人生の教科書

すべてはここから始まった! 『読者が選ぶビジネス書グランプリ2017』総合グランプリ受賞

ライフシフト 100年時代の人生戦略

リンダ・グラットン / アンドリュー・スコット [著] 池村千秋 [訳]

978-4-492-53387-1 本体1800円